



下町組

暫 (しばらく)



茶屋場組

義経八艘飛び



浦子内組

牛若丸弁慶



新町組

南部信直公

くずまき
秋まつり 2010

秋の訪れを告げる「くずまき秋まつり」(同実行委員会主催)は、9月25日と26日の2日間、盛大に開催されました。華やかな4台の山車がまちを練り歩き、祭り囃子がまちに響き渡りました。

雨にも負けない
若者たちの熱いステージ

初日25日は、あいにくの雨模様。華やかな山車には丁寧なビニールがかけられ、まつり参加者も雨具を身につけての運行となりました。午後のパレードでは、おみこしに葛巻神楽、七つ物、葛巻さんさ踊りなどの郷土芸能に続いて、茶屋場組、下町組、新町組、浦子内組の4台の山車が葛巻八幡宮から秋葉神社までお供しました。

夕方6時からJR葛巻駅構内で行われた「踊りの競演」では、各組の音頭上げや若者たちの熱気あふれる踊りが披露され、約800人の観客を魅了。雨にも負けない

熱いステージが練り広げられました。

すっきりとした
秋晴れに

2日目の26日、前日がうそのよくなすっきりとした秋晴れとなり、朝から各組の山車は威勢よく出発。音頭上げや踊りを披露しながら、沿道の観客を喜ばせました。浦子内組の藤森雅美組長は「地域が一体となって山車の製作や太鼓・踊りの練習に取り組みことができ良かった。子どもたちにたくさん参加してもらい、次へつなげていきたい」と話しました。

ありがとう

来年も待ってるよ

まつりの締めくくりは、地元での踊りの披露。何度もアンコールと叫び、「まだ終わりがたくない」というみんなの思いでいっぱいになりました。最後は、山車にむけての音頭上げ。2日間の感謝とまつりを惜しむ気持ちで織り交ざり、力いっぱいうたいました。

すっかり肌寒くなった秋の夜空の下、まつり参加者からは「おまつり、ありがとう」「来年も待ってるよ」という熱気あふれる歓声が上げられ、くずまき秋まつりは幕を閉じました。

